

第2回江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会議事録

開催日時：令和5年10月6日（金）午後2時～午後4時07分

開催場所：KTXアリーナ 2F 会議室3

出席者：大勝志津穂委員、岩田正武委員、河合荘太郎委員、早川浩史委員、
山田尚代委員、櫻澤弘章委員、岩田一洋委員、植島禎一委員、
横山史明委員 委員計9名
村教育長 松本教育部長
事務局

欠席者：安藤善啓委員

傍聴者数：2名

報告

- (1) 第1回検討委員会の結果について
- (2) 第1回作業部会の結果について

議題

- (1) 江南市の方針（案）について
- (2) スケジュール（案）について
- (3) 保護者への周知文書（案）について
- (4) アンケート（案）について
- (5) 入学説明会への配付資料（案）について

会議資料

- | | |
|-------|---------------------------------------|
| 資料1 | 第1回検討委員会委員からの意見・要望等
第1回検討委員会議事録 |
| 資料2 | 第1回作業部会委員からの意見・要望等
第1回作業部会議事録 |
| 資料3-1 | 令和5年度 部活動参加者状況 |
| 資料3-2 | スポーツクラブ活動試行実践資料「実施状況」「課題」 |
| 資料4 | 江南市の方針（案）学校部活動の地域移行に向けて |
| 資料5 | 江南市運動部活動の地域移行スケジュール（案） |
| 資料6 | 学校部活動の地域移行について（お知らせ） |
| 資料7 | 休日の学校部活動の地域移行に係るアンケートへのご協力について（お願い） |
| 資料8 | 中学校へ入学される皆さんへ
～江南市の学校の運動部活動が変わります～ |

議事内容

- 報告（１）第１回検討委員会の結果について
- （２）第１回作業部会の結果について
 - ・学校部活動参加者状況
 - ・スポーツクラブ活動試行実践実施状況と課題

○事務局

第１回検討委員会の結果として、主な意見・質問を抜き出して、取りまとめたもの、議事録と併せて報告する。

議事録については「公表用」としてホームページに掲載しているのので、ご確認をお願いしたい。

第１回の作業部会の結果として、主な意見・質問を抜き出して、取りまとめたもの、議事録と併せて報告する。

これまでの会議の結果を踏まえて、今回方針（案）を見直しているのので、本日の議題として後の議題の中で説明していきたい。

また、作業部会の内容については、検討委員会から調査の依頼に対しての結果報告を要点のみご説明させていただく。

部活動の実施状況としては、少子化に伴い、部活動の種目が減少傾向である。また、７月１日時点の在籍人数２，６０８名に対して、部活動を行っている生徒は２，４９４名で９５．６％が何らかの部活動に参加している状況で高い参加率となっている。同様に、運動部活動の在籍人数は１，８６５名で全生徒数に対して占める割合は７１．５％となっている。

次に、昨年の夏から行われた、試行実践の様子をまとめて、試行実践を通じて洗い出された課題を列記している。①指導者、②教員の兼職兼業、③指導者の謝金・参加費の設定、④活動場所と時間帯の確保、⑤参加者・保護者及び指導者・運営者との連絡方法、⑥保険加入、⑦大会参加の在り方、⑧地域クラブの運営、⑨生徒・保護者への周知方法 など多くの課題があがっている状況である。

報告事項は以上となる。

○委員長

報告していただいた内容を踏まえてこれからの案が出されるということなので、案が出された時にご意見をいただきたい。

報告については以上とする。

今日の検討委員会議題に入っていく。

議題（１）江南市の方針（案）について

○事務局

資料４により説明

江南市の方針（案）学校部活動の地域移行に向けて、江南市の基本的な考え方を説明、

- １．国や県のガイドラインを参酌し、まずは、休日の学校運動部活動を地域に移行

することとし、移行可能な種目から進めていく。

2. 移行の目標開始年度は、令和8年2学期からとする。

3. 平日の運動部活動と文化部活動は、地域連携を進めつつ、当面は、学校部活動として、負担軽減の工夫を図っていただきながら、実施をお願いしていく。校長先生はじめ、学校現場の先生方にご協力をお願いすることになるが、並行して課題解決しながら令和11年度を目標に、地域移行できるよう進めていく。

4. 運営主体は、総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ江南」を候補とし、運営をお任せするために何が必要であるかを、実証事業を通じて検証していく。

5. 本委員会をお願いしているとおり、様々な課題をご議論いただき、その検証結果を踏まえて、江南市の地域移行を進めていく。

次に、江南市の地域移行（案）として、学校部活動の現状と課題を整理している。「課題」を解決するために、学校部活動を地域へ移行する必要がある。地域移行後の状況を想定したものであるが、当面、学校のご協力をいただきながら、地域連携を図りつつ、学校部活動として行うことも考えていく。さらに、指導者、会費、運営主体はどこかを整理している。この辺りは、今後、掘り下げて検討が必要な部分となってくる。

次に、大会参加の基本的な考え方（案）について、まずは学校部活動の大会参加の現状を説明する。原則、学校単位での参加となるが、一部の競技で「地域クラブ」の参加が認められているとのことである。引率は教職員、旅費は公費、参加費は個人負担又はPTA会費等となっている。

続いて、地域移行後の状況を想定したものについて説明する。休日の学校部活動が、地域移行した場合、大会は「地域クラブ」で参加するものと考えていく。関係者が協力しあい、少しでも多く「この状況」を作り上げることが、当面の目標となる。地域に移行できない種目については、校長の許可の下、従来どおり学校単位で参加していくこととなる。

さらに「引率者及び旅費」、「参加費」についてそれぞれ整理している。

以上が、これまでに本検討委員からいただいたご意見、作業部会での調査状況及び意見を踏まえて、見直しを行った『市の方針（案）』である。

まずは、この骨格となる部分を固め、その後、詳細な検討を進めていければと考えている。

○委員

中体連の大会参加は、令和5年度から地域部活動での参加はすべての種目で認められている。一部の種目ではなくて地域部活動、地域移行されている部活動については参加ができるようになっている。

しかし、全国大会と言われる部分は一部種目の参加となっており、地域移行のために作られたものではなく、それぞれの種目で、以前からあるクラブチームと言われるものが参加することを、一部の種目で認めているということである。

地区大会から県大会まで、すでに今年度から地域移行をしていく部活動が希望するならば、参加は認められている。

○委員

従来通りの大会は中体連が本部になっていると聞いているが、部活動が土日を委託するようになった折にも、大会は従来通りと同じように運営されるものかどうか

というのは、発表されているか。

○事務局

当面は現在の状況で開催されると聞いている。

ただ、これまでは学校単位でしか出てないものが、地域のクラブも出るようになりつつある状況である。

○委員

今まで、大会に向けて、学校の部活動は土日はどんな練習をしたのか。土日はいずれかの1日で3時間の制限だと発表されているが、そのようにやってきたのか。

移行した場合、制限の3時間というものは撤廃できるか。そう考えてもいいものなのか。

○委員

学校部活動はガイドラインに示された通り、平日は2時間まで、休日は土日どちらか一方で、3時間までというのは、ほとんどの学校で、その練習時間で遵守している。昨年11月に地域移行にあたって地域クラブのガイドラインでも、方向性が、スポーツ庁・文化庁から示されている。そこに示されたものも、基本的には従来ある学校活動に向けたガイドラインに沿った形で示されているので、要はアスリート育成のクラブとはまた違う、地域クラブを立ち上げていくとしたら、学校部活動のガイドラインに沿った形になっていくのではないかと想像している。

○委員

クラブチームは規制あるのか。

○委員長

そのクラブチームというのは、いわゆる民間のクラブということか。

○委員

そこに規制はかからないと思う。

ただ中体連の大会は、ガイドラインに沿ったチームしか認められない、参加の資格がないということが明記されているので、それ以上の練習をするようなチームは、中体連の大会は出れない、という形になる。

○委員

子供の健全な発達を考慮して、スポーツ庁が科学的な根拠に基づいてガイドラインを示している。

民間クラブでも、そのガイドラインに沿って遵守していると認められた民間クラブについては門戸が開かれているという状況である。

○事務局

中体連のあり方をご指摘いただいているが、今回その地域に移行する活動に関しては、現在の部活動の活動を継続する形でやっていくということになるので、勝利至上主義とか、過度な練習時間でやっていくという考えはなく、問題はないかと思

う。

○委員

学校で、部活動で一つの種目を月から金曜日で行い、大会参加するが、例えば部活動に入らず、またその種目以外に、土日をベースとした地域クラブとして活動を広げていきたいと思いますという話である。

地域クラブに参加した場合、平日の部活動はどのような形になるのか。その子どもたちは、例えば、同じ種目なので、ある子は地域のクラブで大会に参加し、別の子はこの中学校の名前で大会に参加する、となった時に、別々の登録が必要になる。

このような場合、子供たちはどのような対応になるのか。

○事務局

生徒は、地域クラブにも在籍しながら、学校部活動にも在籍することはできる。学校で平日に試合することは難しいと思うので、学校部活動で、試合に向けての準備をするということは考えている。

○委員

現在、中学校の部活動で中体連の大会に出て、プラス、種目別のスポーツ協会の大会の方にも多分参加しているところがあると思う。

これに対して、このスポーツクラブの一つの種目としては、どのように調整をしていくのかと思う。民間で活動するクラブで、調整はどのようにしていかれるのか。

○事務局

一つの例としてバスケットボールがあるが、スポーツ協会でバスケットボールの男子の活動をしている。夜に活動することになるので、今のところは学校活動とは一線を引いた活動と考えている。一般のクラブチームという位置付けになっているので、責任者の方と調整をして、試行実践で行っているバスケットボールは女子に限って実施していく。そのため、女子のバスケットボールに関しては、部活動の延長ということとしている。これを男子でやろうと思うと、スポーツ協会との人の取り合いというか、中学生の方に混乱を招くということで、そのあたりは十分に事前調整をして、試行実践を行っている。

○委員

移行後の活動の中の文面では、地域クラブが出来上がったら、そちらで大会に出る、学校としては原則として出ないととらえられる文面だが、その理解でよろしいか。

○事務局

それが理想と考えており、休日を移行する以上は学校からはなるべく出ないというのが理想にはなるが、過渡期に当たるということで、例えば生徒が学校のチームで出たい、或いは地域移行をする地域クラブが発足できないという場合には、学校の関係者の方に負担になるかもしれないが、生徒の意向を組んで平行してほしい

ていくようなことができないかという案になっている。

○委員

今の話の流れだが、最終的なゴールは、学校の運動部活動をなくして、地域クラブに移行することと考えているのか。

○事務局

運動部活動ということに限っている理由としては、文化部活動が現在、休日に活動していることがあまりなく、一部休日に活動している吹奏楽などは補完していくが、国の方針として、まずは休日の活動を地域移行していこうということで、江南市もまずは令和8年度までの3カ年で、休日にやっている運動部活動を地域でお願いできないかというところを議論しているところである。

○委員

私が心配しているのが、個人競技はまだしも団体競技の野球とかソフトボール、サッカーが試合に出れるメンバーに限られるスポーツが出場できるのか。現状は、各学校のメンバーだけで、成立できる人数がいる。例えば野球、市内の生徒が全部集まると、レギュラーになるのがすごく狭き門になるかと思う。

当然、地域クラブになると、どちらかという多分勝ちを目的としたチームになると思うので、部活動はそれだけではない、と思うところもあるが、市教育委員会のお考えは。

○事務局

おっしゃる通りで地域移行を進める二つの大きな要因があるが、一つは教員の負担を軽減することである。今、学校に求められることが多岐に亘っており、先生方も大変苦労されている。その中で部活動を地域へお願いしていくことで、より充実した学校の指導ができるのではないかとということである。もう一つは少子化対策で、今はまだ部活動として、活動できるだけの人数がいるところも多くあるが、今後少子化が進んでいく中で、部活動が成立していかないという心配が、保護者の中にも、学校の先生の中にもある。そういった中で地域クラブを作ることによって、これまで学校には無かった部活動が地域クラブでは可能となり、生徒の選択肢が広がるのではないかとということである。

地域クラブが勝利至上主義になるかどうか、このあたりは先ほど委員も言われたように、活動量の制限とか、指導者に対してお願いをして、勝利至上主義、行き過ぎた指導とか、そういったことがないような地域クラブの在り方を現段階では想定している。

これは活動量を制限したり、指導する内容を、先生方から教えていただいて、今の活動並みの活動で収まるような、飛び抜けたようなことがないような指導員の育成というの、次の課題として出てくるのではないかとと思われる。

○委員

先日、学校での会議の中で、夏休みが終わった後に風紀が乱れ、他校の生徒に影響されて非行に走ってしまったという話があった。当然他の学校と関わると、そういう懸念も少しあるのかと思うが、そのあたりの対策というものは考えていただけ

るか。

○事務局

今の時点で答えが難しいところだが、保護者としては例えば行き来の距離が遠い場合、交通事故の心配も含めてのことだと思うので、今後の議論として、運営をお願いしていくスポーツクラブにも、そのようなケアを合わせてできないかというところを協議していく必要があると考えている。

○委員

学校の先生が管理しきれない部分になると思うので、その辺りもよろしくお願ひしたい。

○委員

確かに、これまでは生徒指導を部活動に頼ってきた学校というのがあったと思うが、国がもう既定目標として、地域単位に移行するというを示されている。学校が部活動に頼らない、生徒指導だけでなく、学校の魅力づくりということを進めていかなければいけないと思っていて、すでに始めている学校がある。

地域クラブによって他校との繋がりができると思うが、リスクばかり考えずにポジティブに仲間と繋がりが広がるととらえていく。当然、いろいろ問題も出てくると思うが、それはむしろ課題が見えてきたととらえて、そこに指導のアプローチだとか、支援のアプローチができるのではないかととらえながら、ポジティブに考えていきたい。

そのために地域クラブは、子どもたちの健全育成のツールとして、地域で子どもを育てるツールとして生きてくるのではないかと思う

○委員

先ほどの大会の出場の件で、例えば、登録人数とかを含めると、例えば一つのチームから、A、B、Cのように複数のチームで、中体連の大会に参加可能なのか。

多分集団スポーツは今の登録数だと、1ヶ所での活動は難しいのかと思う。

○委員

指導者の数の関係もあるが、チームが一つならば、1チームしか出れないが、江南市の地域クラブで、活動がAとBとCと三つあったら、三つのABCのチームは出ても大丈夫なので、たくさん的人数が集まるなら、たくさんのチームで活動を分散してやれると一番理想的だと思う。

ただ、それには指導者の数とかもあるので、それを、活動母体が一つだと1チームしか出れないが、名前を変えて、三つあれば3チームが出れる。

それから資料の表の中では3学年の生徒数が入っているが、実際は本当に2学年ぐらいしか、チームは作らず、一年生はほぼ入ったばかりの夏なので、大会で出る子はもっと一握りだと思う。実際に2学年で大体学校の部活動は運営されているので、その2学年で今チームができなくなっている。

野球だとかサッカーだとかは、小さい規模の学校はもう人が集まらず、なくなっているところもあるので、できるだけそういう子たちが活動できる場として、この地域クラブができれば、逆に集まってきて、一つのチームが作れるので、常に

土日と一緒に練習ができるというのは、ポジティブな感覚だと思うので、そのような考え方もできると良いと思う。

○委員

それに付け加えて、中体連の大会だけを見ると、これから中体連がどうなっていくかも今、見通しが立たない段階なので、地域クラブの活動の中で、子供たちが成果を試せる場を、中体連以外の場所で発掘していくことも同時に必要であると思う。そうすれば、たくさんの子たちがいても、一人一人に成果を発表する機会が与えられる。

○委員

中体連の大会以外の選択肢を、今後発掘していくという話もあったので、それが発掘できればと思うが、まだ発掘する前の段階では、中体連の大会に出る子供が、どちらを選ぶか。学校のチームを選ぶのか、それともクラブで出る方を選択するのかを子供本人に選択肢を与えるのかどうか。学校とクラブでの選手の取り合いで、子供からしたら、どちらの先生にも、指導者にもよくしてもらっていたら、子どもは選びにくい、ということが想定できる。例えば学校でもチームを作れるだけの人数のある中学校の子は、そちらで出て、学校で野球が9人集まらない、サッカーで11人集まらない子たちは、クラブの方で出てくださいといった、ある程度の線引をしていただいた方が、問題は起きないと思ったので意見させていただいた。

○委員

これから数年で移行をしていくので、子供たちにとってわかりやすいガイドラインは必要である。

部活動を廃止するという決断をしていただくことも、なかなか難しいと思われるため、状況毎で移行していく方針があると子供たちもわかりやすい。

○委員

休日に地域移行ができた部活動は地域クラブで参加していく方をベースにしますので、選択肢を与えるつもりは中学校ではない。

平日の練習を見るのは、学校でも行うが、休日の部活動を地域移行するということは、大会参加中も休日に行われるので、地域クラブで行うべきと考える。地域移行ができた段階で、地域クラブから参加するのが基本だと考えているが、その理解でよろしいか。

この選択肢ができるみたいなことが書いてあるが、中学校としてはできた段階で、先生の引率での大会参加は、していかない方向で中学校の校長会では理解ができています。

○事務局

最終的に中体連の制度にも関わってくる話にはなるが、制度で許されるのであれば、学校のチームで参加するという事も考えている。学校の先生に本当に恐縮なところであるが、過渡期にある生徒に対して、配慮が必要な部分ではないかと思う。最終的にはこの方針がある程度固まったところで、アンケートを取らせていただきたいと思います。どのぐらい地域クラブにニーズがあるのか、どんな種目に

ニーズがあるのか、特に団体競技は指導者との子供の関係とか、指導方針とか難しいところがあると思うので、その辺りをケアしながら、保護者へのアンケートを取らしていただいて、どのぐらいの受け皿をどういう形で準備したらいいのかというのを、考えていく必要があると思っている。

○委員

現状把握のためのアンケートはとても大事だが、選手の取り合いのようなことが起きかねないのではないかということだが、国の目標で地域単位に移行していくためには、絶対に必要なのが、学校も地域にお願いというスタンスではいけないし、地域も学校に寄り添わないということでもいけないと思われる。

示されている地域単位の活動が子供たちにとって充実した仕組みになるように、お互いに寄り添って連携してその仕組みを作っていく必要がある。

私はよく、ともにつくる共創という言い方をするが、地域連携だけではなくて、地域共創まで行って、地域クラブの仕組みを作っていく必要があるのではないかと考えている。

それは、学校の先生たちのマインドセットも必要であるし、地域の人たちへの理解のための周知も必要なのではないかなということ。それが地域共創を可能とするため何らかのガバナンス機能とか、そういった仕組みも必要ではないかなという気がする。

○委員

基本的な考えにあるように、開始年度は令和8年度の2学期以降で、11年度を目標に体制が整っていく工程があるが、これは、8年度の2学期以降に地域クラブができていれば、ここから移行するという意味ではないのか。

○事務局

もちろんそう考えており、8年度を待たずに、活動ができるようになれば、それを持って移行ということも可能かと思っている。

例えば、バトミントンとか、ダンスとか、地域で立ち上げるものがあればそのまま移行した形で生徒が参加できるような形も考えられるのではないかと。

また現在、存在する種目であっても、地域に移行してスムーズにできるようであれば、8年を待たずに、正規に移行したと言えるのではないかと考えている。

11年度というのが、どうしても地域クラブが立ち上げることが出来なかった種目だとか、他の平日の部活動、それから文化部に関して進めておく必要があるのではないかということで11年度目標に平日、文化部活動も、すべて地域に移行していくという目標として、具体的な年度をかかげたところである。

○委員

8年の2学期で移行をしていくことが、もうベースとして、最終的にはとかいう言葉があるが最終的には8年の2学期という形なのか。

○事務局

休日については8年度を目標とする。

○委員

最終的な目安は8年2学期というのを、ベースに考えるということで理解する。

○委員

令和11年というのは、平日を含めた、さらにもう一步進んだ地域移行が11年目標ということである。

例えば、今度試行実践が10月から始まる中で、ソフトボールが、地域移行が完成するのではと思っていたが、実際は登録人数が思ったより少なく、お金もかかるということもあり、理想通りにはいかなかった。

○委員

先ほどから中体連の大会に出場するという話をしているが、教員の方たちの顧問会から丹葉地区の顧問会で、要綱や内容が決定し、参加も決まるのではないか。

試行実践を繰り返していく中で、どなたがどのようにそこへ参加できるようにしていくのかが一つ疑問となる。具体的に今後どのように参加に向けて進めていくのかということを知りたい。

○委員

大会自体の運営は、中小体連のこの地区だと、尾北支所に庶務等がある。種目ごとに部長の先生が充てられ、運動部員が4名いるという組織である。この組織は、そのまま残って教員がやることになると思う。まだこの先は不明ではあるが、そこへは、教員を通して要綱ができるので、地域クラブでの参加は可能となっているのが、今の段階である。申し込んでもらえれば、地域クラブでも参加できる。

これからは、学校単位で参加するチームと、部活動が地域移行されたチームが混在するような期間ができていくのだと思われる。

○委員

現状で、地域で土日に活動するチームができ、練習の時間制限などの参加要件を満たしたうえで、申し込みをすれば参加できるということだと理解する。

○教育長

まだ中体連も、現在地域移行したクラブが認められているが、地域クラブで出場するか或いは学校で出場するか、選択できるようなニュアンスではあるが、まだ模索中である。中体連の考え方は、我々も注視していかなければならないと思っている。

平日に地域クラブができれば、基本的に地域クラブで参加していくとことが今後のスタイルだと考えている。

お金のかかる話なので、参加できないということも出てくるだろうと思う。

学校の活動だけで十分だという方もいるため、そこをどう救っていくのかということも今後の課題だろうと思っている。

従って、地域クラブが存在できなければ、学校部活動で協力して継続することをしばらくお願いすることになると思う。だから大会参加も、地域クラブでもいいし、学校でもいいということになれば、地域クラブに参加していない子供たちが、大会参加できるような体制をとるためには教員の協力を得て、大会参加することも

出てくる可能性はある。

まだ本当にその辺のところは検討課題だと思い、中体連の方針を注視しながら進めていかなければならないと考える。

今、大会参加の方が中心の話になっているので、計画に戻り、考え方として、土日の今まで学校の先生方がやっていただく活動を地域の指導者に移行していこうという考え方でご理解いただければ、その方向で江南市としては進めていきたい。

全部の学校に網羅されている部活動が全部できることが理想である。けれども現実には大変難しく、クラブの指導者の関係もあるが、まずは令和8年2学期から、実施できるクラブから移行するというのが前提で、そのあと、まだできていないクラブについては指導者を確保しながら、地域クラブを作り随時移行していく。それから平日の移行については、これはかなりハードルが高いと思っている。部活動をなくしてしまえば問題ないが、今の学習指導要領上は、教育課程外であっても学校部活動が残っている。そこで子どもの健全育成のため、学校で部活動をやることを進められているので、これがどうなるかによって大きく影響してくると思う。指導要領の改定が行われて、学校では部活動を行うことが必要なくなり、今の小学校のような形になってしまえば、平日の地域移行は考えなくても、或いは考えたとしても、一般のクラブチームのように自由な活動になっていくのだろうと思う。

方針案の方向についてご議論をいただけるとありがたい。

○委員長

教育長の話のように、移行後の活動に戻って、休日のみ移行していくということに対して、ご意見をいただきたい。

○委員

土日の移行を考えていく場合、運営主体はスポーツクラブ江南で、とのことだが、スポーツクラブの運営は余裕のある状態ではなく、市から任されることには心配なところがある。

中学生は中学校に行ったら何部に入るという感覚で、夢を持ってきている状態のため、やはりスポーツすることが大事なのでなくしたくはない。部活というものをなくしたくはないが、土日のスポーツクラブはチームワークより技術を高めるという意味のスポーツクラブの活動だと思って、学校の平日部活はチームワークが主体の感じの部活であって欲しいなと思っている。

スポーツクラブ江南としては、スポーツを楽しんでもらうことや、スポーツを親しむために総合型地域スポーツクラブとして立ち上げたのでご理解いただきたいという気持ちがある。スポーツクラブとして土日の移行には関わりたいとは思いますが、原資がないので、助成金などの公的支援が必要である。

例えば中学校に行ったら、給食費のようにスポーツ費というものを、保護者から調達したり、江南市から助成をいただきたい。それが無理なら企業からお金をいただくなど、原資がないと事務費用が出ない。

子供たちを地域で育てるということであれば、江南市からもう少し助成をいただきたい。

○委員

本当に切実なお声だと思うが、私も最初この部活動の地域移行を勉強する前まで

は、簡単に地域にお願いができるものだと思っていた。しかし、いろいろとわかってきて、スポーツクラブとも近づくことができた中で、簡単に地域に投げられるものではないことがはっきりわかった。

だから、原資という具体的にお金というところもあるが、ノウハウとかも含めて、今まで中学校とクラブが連携した実績はないので、運営のノウハウも含めて、そのクラブの強化ということも両輪でやっていかないといけない。

学校がお願いしますと言っても、実際に受けとめられるところがなければそれはお願いできないわけで、それを一緒に学校の協力を得ながら努力をしながら、やっていく必要があるので、そこにももちろん行政が関わって予算を充てていただければ一番良いのではないか。

○委員

受け皿となる地域クラブと学校との協力は絶対必要なことだと思っているので、8年までの間に地域移行をしていくための受け皿となる地域クラブの主体となる方々がもし決まってきたならば、その方々と、地域の顧問と一緒に、休日に運動部活動を見ていきながら、お互いの考えをすり合わせていき、それで令和8年の2学期を迎えていく方向が一番いいと思っている。

まずその地域クラブの受け皿が引き受けていただける、中心となる方々をどう見つけていくのかということも非常に大きな課題だと思う。

それはお金が必要なのかどうかというのはまだ議論の先において、顧問として、そちらの方向へ一生懸命、部で今までやってきたノウハウとかを、クラブの方にお知らせしたりとか、クラブが望まれることを聞いたりとかいうことができるのではないかと思うので、学校側が地域の方に一方的にお願いすることは、できないと思っているし、協力をしていくという方向では、中学校の校長方にはご理解いただいている。

○委員

今、お金の話が出ているが、運営費用としてどれぐらいの予算が必要となるかを考えると、中学生の何人がスポーツクラブへ入ってくるか。その土日のクラブに何人来るかどうか。一つの学校で50人とか60人、どの程度の参加を希望する生徒が出てくるような状況になるのか。必要な指導員も増えていく。本当に指導員にかかってくる。1人の指導資格を取る費用はどのくらいかかるか。

○事務局

スポーツ庁が学校の部活動指導員の資格を取る講習がある。こちらは3日間の講習で、現在東京と関西で開催されているが、3日間講習で、一般の方が受講すると、3万1000円。会員だと2万9000円となっており、中には安い形で受講できるものもあるとは聞いている。

3日間で3万1000円、なおかつ、場所が東京、関西であることから、宿泊費も含めると、相当な費用がかかるという現状である。また、取得した資格の有効期限が2年となっているため、継続の申請にも、費用がかかるということである。

学校部活動の中でも、外部指導者とか活動指導員を入れて指導している場合もあるかと思うが、中学校の部活を指導するには、このような研修の費用も必要となる。

○事務局

委員の皆さんがご発言いただいている様々な課題については、今後の議論となる。

例えば指導者の報酬は、スキルの問題も含めて、非常に大事な懸案事項とは考えている。それから費用面の支援の関係は、スポーツクラブへの支援は、責任の面でも、バックアップすることが必要だと思っている。

ただ、これをどのような形で市や教育委員会で答えを出していくかは、この検討委員会の中でまとめていただいた結果に基づいて考えていくことになる。そのあたりの議論は、今後、方針の骨格部分とは別で必要になるかと思うので、よろしくお願ひしたい。

○委員

それぞれの方々が思われる中で移行するには、最低限いくらかかるかというものを理解して話をしてかないと、これは進まない。

また、参加希望のアンケートも行うなど、試行実践も含めて体制を整える必要がある。そういう意味でも試行実践がいかに重要だということを理解して欲しい。

○事務局

試行実践を通じていろんなことがわかってきて、費用の面や人の集まり具合など大変参考になっている。

学校部活動がある中で試行実践を行っているということでなかなか参加者が増えてないということもある。

これで本当に部活動がなくなるとなればニーズがどうなっていくかは、心配なところである。

○委員

指導をする教員の兼職兼業の申請と許可について教育委員会の考えは。

○教育長

兼職兼業は最終的には教育委員会が許可をするが、校長に届け出をして校長が今の働き方改革の中で、通常の業務に影響があれば、この場合は校長としては許可できない。通常の業務も含めて、土日の、週1回月1回から月2回ぐらいの時間であれば校務に支障がない、ということでの届けが来てくれば、それを教育委員会が許可をしている。

実際に教育委員会には、各学校から校長先生を通じて許可申請が上がってくるので、教育委員会として許可をしている。従って、学校の職員を管理してるのは校長であり、職員が働き過ぎのため、兼業は認められないというケースはないとは言えない。

○委員長

今、第一議案のところで大きな方針として、地域移行の案のところ、基本的な考え方と地域移行、大会の基本的な考え方の大まかなところで根本案について、これで一旦お諮りしたい。

資料には懸案事項の記載があって、例えば補助金とか助成金の件とか指導者の謝

金の件だとか、その辺りの懸案事項については、提案された方針で、今後も引き続き検討が必要との認識で進めていくことでよろしいですか。

○委員

一つだけ、この上の移行後の活動の四角の枠の中で、部活動講師等による地域連携というのがあるが、部活動講師等の仕組みが、江南市は外部指導者の制度を採用していて、月額1万2600円を外部指導者の方に報酬として、お渡ししながら、学校に指導に来ていただいている、技術指導を中心にやっていただいている。この外部指導者制度のもとでは、この外部指導者の方は、単独の顧問として、指導ができないので、必ずそこに学校の教員がつかなければならない。

1人で指導する、もう一つ制度があって部活動指導員制度というのがあるが2017年から始まっているが、国が3分の1、県が3分の1、各市町が3分の1の報酬というお金を出しながら、部活動指導員制度に則って、この連携を進めていくということであれば、この部活動指導員の方は完全に顧問の代わりとして、1人で部を受け持つことができる方で、もし部活動指導員制度に転換したとしたら、その分には、今後、教員がつかなくても、見ていただけるというのがあるので、教員の負担軽減には効果的だと思う。

近隣でいくと春日井市が、この部活動指導員制度を使って大量に部活動指導員を集めて、地域の方が学校に来る。教員は見ずに、その方にお任せするみたいなことで進めているという事例はある。だから、江南市もそれを検討すると良いのではないかなと思う。

○委員

指導者の件では、試行実践でいろいろやってみえるが、統一した見解を持ってもらえるように、例えば、行政で8時間講習を設定し、その中で議論されている趣旨や内容を伝えていただいて、各種目の現場でご活躍をいただけるような仕組みづくりを提案する。

○委員長

懸案事項となっている指導者について、指導者の養成の仕組みと、外部指導者や部活動指導員でどのように対応していくのかということを検討していただきたい。

議題2 スケジュール（案）について

○事務局

資料5により説明

江南市運動部活動の地域移行スケジュール（案）として、休日の学校部活動を地域に移行する「改革推進期間」を表形式にお示しした。ポイントとして、保護者・生徒向けの周知及びアンケート調査、また、例年1月末頃に学校で実施される入学説明会での事前周知で、内容及び配布時期・実施時期については、この後の議題でご説明することとなる。試行実践から本格稼働まで、正式な受け入れ体制の構築をこの期間に行っていく必要がある。

また、検討委員会・作業部会の会議での協議内容及び地域移行の進捗状況は、必

要に応じて、市議会、教育委員会、保護者に報告又は周知をしていく。

8年度最後のところは、4月あたりで、資料自体は終わっているが、先ほど以来話が出てるように、3年生の活動の節目などを考慮して、8年度の2学期からが節目の年で設けるのが好ましいのではないかと考えており、スケジュールの調整を考えていきたいと思う。

○委員

先ほどお話したように、この試行実践から移行の状態を作っていく中で、顧問とスポーツクラブと地域クラブを担当される方との協業の期間が絶対必要だと思うが、その顧問の部分が少しこの中には触れられていないような気がするので、ぜひ1項目起こしていただいてそこを入れていただけると、学校としても、顧問の方々に、移行に協力してもらうことを説明しやすいので、一度検討いただきたい。

○事務局

学校の箇所にも顧問の先生の部分を加えて、ご協力いただける形で、反映させていただきたい。

○委員長

それではスケジュール案についてはこれをお願いしたい。それでは次の議題の説明をお願いしたい。

議題3 保護者への周知文書（案）について

○事務局

資料6により説明

「学校部活動の地域移行について（お知らせ）」

愛知県教育委員会から地域移行・地域連携の内容と進め方を示したガイドラインを要約したリーフレットとともに、江南市の学校部活動の地域移行についての検討を進めていることについて、小・中学生の保護者に周知し、その内容と今後の方向性について、ご理解を得ていきたいと考えている。

この周知文書は委員の皆さんからご意見をいただき、その後速やかに学校を通じて保護者に配布してまいりたい。

○委員

宮田中の地域は、外国籍の方も結構多いので、そういう方へフォローできるような資料の作成もご検討いただくとより好ましい。

○事務局

学校では、どのような対応をされているかというのもお尋ねしながら、対応していきたい。

○委員

PTA活動で言うと、正直フォローしきれてない部分がある。様々な国が点在して

て、英語だけで対応できない。フィリピン語とかポルトガル語とかいろんな言語がどうしても混在している。その辺は何か上手にカバーできるように考えていただくと助かる。

○委員長

「江南市の取り組みについてお知らせする」ということなので、一番下の段落が見て欲しいのではないかと思うが、そこは下線を引くなど、強調してはどうか。

文字が多いと基本的にはあまり見てもらえない。タイトルが「地域移行についてのお知らせ」なので、一番知って欲しいところが目に止まるように工夫するとよいのではないか。

○教育長

ここでお知らせしたいのは、今、検討委員会で江南市も検討を始めたというところである。

ニュース、ネットでも、地域部活動のことが、随分出ているが、江南市はどうなっているのか、という話が出てきているので、江南市でも検討委員会を開いて、土日の部活動の地域移行を検討しているということだけでも、まずは第一段階としてお知らせしていきたい。

ただ、最後の段落は現状、こんな取り組みをしているという、これもお知らせをさせていただきたいと思っている。

一番は、検討を始めたという部分と県から出されてる概要版で、こんなイメージを持っていただくと良いのかなということでの1回目のお知らせということになる。詳しくは今後、この検討委員会でも協議し、方向性を示す段階でまた改めてお知らせしていくということになると考えている。

○委員長

江南市が、土日の地域移行について検討しているということが重要で、まずはそれを知らせるということと理解します。

議題4 アンケート（案）について

○事務局

資料7により説明

「休日の学校部活動の地域移行に係るアンケートのご協力について（お願い）」このアンケートは、中学校入学を控える小学生の保護者向けに実施し、本検討委員会での検討とあわせて、地域移行の円滑な推進に資するものでございます。本アンケートにつきましても、委員の皆さんからご意見をいただいたうえで、内容を精査したのちに実施してまいりたいと思っております。

○委員

小学校1年生から6年生の保護者で児童1人につき1回ということは、子供が1年生と5年生がいたら、2回該当することによいか。

子供へのアンケートは考えないか。

○事務局

子供の意見を保護者の方に吸い上げてもらい、話し合った上でいただければと思っている。児童1人につきというのが、例えばお兄さん、妹さんとで意見が分かれたりする場合も想定し、児童1人につき1回答とさせていただいている。

アンケートの中身の検討を、ぜひお願いしたいと思うがご意見あればお願いしたい。あとは、1年生から6年生とあるが、ご意見をいただきたい。

アンケートの実施は、じっくりと考えて、今年度中に回答が得られるような形で考えている。遅くとも年末、年明け、それより早いのが本来望ましいと考えている。

○委員長

令和8年、2学期というとは何年生が中1か。

○事務局

現在の小学4年生が中学1年生として入学する年度になる。

○委員

高学年だけでいいのでは。

要はそれより下の学年は形づくられたものに沿っていくことになると思うので、あえて聞かない方がいいような気もする。

例えば小学校1年生で長子の場合だと、全く多分想像もつかないと思う。

○委員

一般には保護者の方は、地域クラブの活動というのは実際に移行するということなんだが、土日の部活動の地域移行について具体的に説明がないと、このアンケートだけでは一体、何なのかということがわからない。少し説明を加えた方が答えがしやすいかと思う。

○事務局

先ほどの保護者への周知、文書と併せてできると良いとは思っていたが、まずは早い段階で周知し、アンケートをするときにも、こういった形で、保護者向けの一部内容がわかるようなものは、少しお示しをさせていただくという形と、あとアンケートの中に、ガイドラインの定義を記載しているが、こういった注釈も利用しつつ、分かり易くなるよう、少し工夫して考えていければと思うので、また教えていただきたい。

○委員

方針は若干課題があるものの認められているので、その方針に、あまり具体的に言ってもと思うので、中学校に子供が通ったときに、うちの部活動は地域に移行していくんだというようなことが書けないか。

そうすると、土日は部活動をしなくなる方向というような言い方は少しくついかも知れないが、どう変わっていくかということがわかると良いのではと思う。あまりたくさん書くと理解できないので、うまくまとめていただくと良いと思っています。

○事務局

今のお尋ねは、次の議題で、入学説明会の時に、図示と Q&A 方式でお示ししていく考えがあります。

こちらもなるべくわかりやすいものに、今委員がおっしゃっていただいたような趣旨の、内容になるかと思うので、次の議題になるが、ご意見いただきながら精査できればと考えている。

○委員

こういう資料があればとてもわかりやすいので、併せてアンケートの参考になるようなものがあると思った。

○委員

アンケートの方は3学年とるような話になりそうであるが、令和8年の2学期を目途にというような言葉が必要ではないかと考える。

中学校へ入学される皆さんへもそうであるが、例えば今年度や来年度入学する子供たちに配布したときに、来年からすぐ変わるのではないかと誤解を招くような気がするので、ゴール地点として令和8年の2学期を目途に進めているということも付け加えた方が、周知しやすいのではないかとと思われる。

○事務局

議題としてお認めいただいたという前提で、「令和8年2学期から」という文言を入れた形で、実施できればと思っている。

○委員

意見集約ですと、保護者もいろいろなご意見もあると思われるが、地域移行が進んでいくことに概ね皆さん理解されると思っている。

その上でいろいろな意見を参考として聞きたいということであれば、回答は例えば、考えに近いものを複数選択可としてもいいと思う。また、記述式で書いてもらうという選択もあるのではないかな。

すべて選択で答える回答形式になっているが、保護者の考え、懸念点、不安点、もちろん費用もいろいろ含めて、そこを記述式で吸い上げる項目もあればいいのではないかな。

どんな意見が出てくるか不明であり、作業部会を含めてたくさんの懸念点の想定はあると思うが、想定外のご意見も出てくるかもしれないので、広くその当事者であるご家庭の意見を拾っていただけると、より理解も、進むのではないかとと思われる。

○委員

アンケートの中に地域クラブ活動の簡単な注釈文が書いてあるが、できれば URL を貼って、二次元コードで読んで、ページに飛べるものを付けてもらえると良いと思う。

○委員

スポーツクラブの皆さんが言われている、財源の確保は絶対必要なので、後から

江南市の方で高い方に設定しにくくなる。アンケートの回答で圧倒的に保護者の負担額が少ない結果となると厳しいと感じる。

○教育長

今まで学校部活動全般を無償でやっているため、無償でお願いしたいというのは保護者の皆さんの本当のお考えだろうと思うが、どうしても指導者の報酬が必要だから、お示しした参加費が必要となるということを前提にした上で1回あたり500円程度から設定している。

最低でも今、教室をやっていただいているのが大体1回500円程度を見込んでやっていただいております、そういうところからスタートして、三つぐらいの回答にしている。

○委員

無料というのは正直言って甘いと考える。

もう少し、教育を受けるのに、お金が必要だということは、親が認識すべきことであると同時に、そういう周知もしていかなければいけないのかなと思っています。

ちなみに、私は普段テニスをやっているが、それが大体月謝は月8000円ぐらいで、週1回なんで大体、1回2000円ぐらいになる。資料にある1時間1500円というのは妥当な金額ではないかと思う。

○委員長

アンケートを実施していくにあたって、やはり小学生の保護者に一旦、予備調査として回答してもらい、答えにくいこととかを探ったほうがよい。

スポーツに関係する人には当たり前に思うことが、実は全然よくわからない質問項目になることは多々あるので、全体でやる前にテストしたほうがよいと思う。

その中で地域クラブの書き方や設問が分かりづらくなれば書き換えればよい。

また、保護者に教員の多忙化解消ということや、あまり第一に出さずに、やはり少子化で子供たちの部活動が成り立たなくなっていくという状況をお伝えし、改革の必要性を示した方がよいと思われる。

○事務局

現在、試行実践で7種目やっているのだから、その種目はまずはお示しできる。

種目が増えていけば、今後、周知の方法を考えてお願いしていく。

○委員

逆に希望する種目をアンケートで聞いてみてはどうか。地域クラブに参加させたいと答えた方、どのクラブが気になりますかなどを聞くと、そこからどれぐらいの人数が見込めるか参考になるのではないかな。

○委員

このアンケートは子供に聞いていないので、親にお子さんはどんな種目の参加を考えてますかとか、そういうのがあるとよい。

○委員

参加させたくないという回答が多くては地域への移行を進めにくい気がする。

参加を前提とする中で、ぜひこうして欲しいというような要望を聞き取るようなアンケートにならないか。

○事務局

受け皿をどの程度にするかというところにも繋がっていくが、ニーズがどのぐらいあるかというところ、例えば参加させたくないという方は、地域クラブではなくて、本格的なクラブに進みたいとか、野球だと硬式の方を選択したり、学校の部活動にそもそも重きを置かない。学校では体を動かし、走ることなどの基礎的な体力づくりをしたいというお子さんも、かなり多くなってきており、このアンケートの次の段階で、深くニーズを聞いていくことも必要であると考えている。どんな種目が必要で、望まれるか、このアンケートだけではなくてまた次の段階で必要なのではないかなと考えている。

○教育長

まずは今回のアンケートを第1弾として、地域、保護者としては、参加する、参加させたい、そこで子どもも一緒になって相談してもらって参加したいなというニーズを聞きたい。

今の部活動を前提にして、部活動が地域に移行した時に参加したいのかどうかという事実を把握することによって、ある程度会場と指導者の確保に繋がっていくのではないかと考えている。

次に、どんな仕組みが必要であるかなどは、スパンを考えて進めていけばいいと思うし、これ1回で終わるというわけではなく、その次の検討委員会の資料になっていけばいいという程度で、まずは先ほど言われた財源の在り方なども、ある程度方向性が出てくるかもしれない。

このアンケートでは、まずは参加意識があるかどうかというのを調査したい。

○委員

小学校の現場の感覚からすると、今部活動は71.5%の参加という数字だが、今の時代いろいろ聞いていると、希望を取ると5割を切るのではないかと思われる。

○教育長

もう一つは、入学説明会は小学6年生なので、目標としてこういう内容であると示せるが、今の6年生はそのまま試行で活動は終わるが、学校としては、そこはどうか。

○委員

途中からでも、地域部活動の受け皿となる指導者の方と顧問と共同でやっていくような場面も出てくるので、知っておくためにも、ぜひ来年度入学の子供達から配っていただきたい。

○委員長

このアンケートについては、本日決まったことも含めて、もう一度精査していた

だきたい。回答者が少ないと実態把握にはならないと思うので、調査対象者にできる限り回答していただけるような形で回収できるようにしていただきたい。

議題5 入学説明会への配付資料（案）について

○事務局

資料8により説明

「入学説明会への配布資料（案）について」

資料8の「中学校へ入学される皆さんへ」は、作業部会から提案があったもので、各中学校で、ほぼ同時に、同じ情報を周知する、貴重なタイミングとして学校にもご協力いただき、「入学説明会」の場で配布を予定するもので、Q&A形式で、部活動の地域移行に関して、ご理解とご協力をお願いしていくものである。

令和8年度から地域移行をとの目標にしており、現在の小学校4年生からが、その対象となるが、スムーズに移行する場合は、令和8年度を待たずに進める可能性があること、また、地域移行を進めていることの情報提供のためにもこの機会にお示ししていく考えである。

○委員

指導は学校の先生と断定してるが、現状でも外部指導者は江南市で25人いて、各校に地域の指導者がいる。指導は学校の先生と地域指導者の両方でやっているの、地域指導者の方も記載した方がいい。

○事務局

修正する。

○委員

先ほどの外部指導者の25人の内訳を見ると、文科系の部活動にお手伝いに来ていただいている方が10人以上みえるので、今の段階で、結構な割合で文化部活動の地域連携があるので、運動部活動だけが先生が見るみたいな印象になってしまう気がする。勘違いされやすいのではないかな。

○委員

当面は現状と変わらないので、文化部の枠をなくせばいいのではないかな。下の注釈部分に文科系は現状と当面変わらない、ということも書いてあるので、それでいいと思う。

○事務局

その辺は議論があったところで、文化部を一切ここに書かないと、逆に文化部の方から、文化部はほっとかかれているのではないかなということもあり、文化部の部活動は当面変わらない、そういった表示といたしますか記載の仕方をし、こちら皆様にご意見いただきながら、先程のアンケートと同様、修正を加える形で進めていきたい。

○委員

吹奏楽部の先生方の声を聞くと、学校の先生としては、結構苦しんでいる声が聞かれるので、文化部は学校部活動を継続するとしたら、多分ショックだと思う。文化部活動の顧問の先生と吹奏楽の顧問も、これから地域連携、地域移行が進んでいくことに期待ができるような受けとめをしてもらえると嬉しいと思っている。

○委員

子どもたちに何かしてもらう時に費用が必要だろうというのは、個人的にはそういう意見ではあるけれども、本当にいろんなご家庭、子供たちがいるので、移行することは、概ね賛成でも、問題なのは何かをやるとなった時はその予算面が受け入れ先の方にも不安がある。そういう中で、江南市が子育て推進していく中で、予算を確保していただきたいと思う。江南市には本当に思い切って子育て応援しようとしてるとかを見せていただきたいし、そういうところにこの町の希望があるというと思う。

保護者代表として、子育て世代代表としてお願いしたい。

○委員長

それではその他の今後の予定について。

○事務局

その他の今後の予定について、検討委員会として何らかの方向性をまとめていただき、こちらを報告書として教育委員会に報告するという形をとりたいと思う。

方針とか課題をまとめて最終的に教育委員会の方へ報告して参りたいので、予算、お金の面に関しても、ご意見いただければと思う。最終的な取りまとめは次回、2月19日第3回の検討委員会で議題を予定していく。

また、公表用の議事録をまとめていくので、議事録の確認のお願いを合わせてさせていただきます。

それから作業部会は1月の26日に予定をしておりますが、先程のアンケート、それから保護者向け説明会の資料を作業部会のメンバーの方に、会議ではなくてメール等でやりとりをして、ご意見をいただくことを考えている。

○教育長

保護者向け説明会の資料は、作業部会である程度ご意見いただいて、修正されたものを、各学校にデータでお渡ししたい。

○委員長

作業部会の方で、保護者への説明文書とアンケートの内容の確認、修正を進めていただければと思う。

方針など方向性は一旦定まったというところで、今後進めていただければと思う。

本日は、これにて散会とする。